青木（金井）淳君のこと

2025年4月15日 小松 泰彦

先だって、数十年ぶりで筑中同期今井博、堀内義 両君と歓談した。その折り「小松の仲良しだった金井（淳）はどうしてるや？」と聞かれ「しまった！」と思った。昨年1月20日に亡くなっていたことを4月に知り12月に中越慎介君と二人で長野市まで焼香にお伺いしてはいたが、追悼文はまだ認めていなかったからだ。1月に膀胱がん手術、5月弟の看取り、その後、肉腫だ肺癌だの疑いでばたばた、“金井（結婚後青木姓になっても「かない」と呼んでいたの）すまん、遅くなっちゃったが思い出の一端を綴ってみたので、これで見送りにさせて呉れやな”！

金井と初めての出会いは昭和35年4月1日。村井駅8時発D51で、深志入学式に登校した日だった。金井は笹賀から自転車で、俺は駅西から。波長もあったのだろう、喧嘩もせずよく一緒に過ごしたものだだった。

心根（こころね）が優しい男だった！

或る時、笹賀の金井んちに遊びに行った時のこと。お袋さん一人で留守番。俺と二人でお茶を飲みながらお袋さんがこんなことを言っていた「生まれた直後肺炎に罹らせてしまった。戦後間もない混乱期、薬なんかどこにもない。八方手を尽くし、漸く有効薬を探し出し命拾い。だが後遺症を引きずり虚弱体質にさせてしまった。家族皆して“あっちゃんは勉強なんかしなくていいから、身体造りだけ頑張るように！”と言い聞かせ育てた。おかげでとても優しい子に育った。周辺では「金井さんとはお子さん皆優秀で（兄貴らは銘柄大学やら医者やら）ってほめて貰えるけど、“淳が一番いい子・・・”

山辺だったかお袋さんの療養時代。100歳過ぎてたか？俺と二人で見舞いに何度も行ったよな。金井が耳元で「お母一さん、淳だよ、淳だよ」、なんの反応もなし・・・だが、帰り際看護師が「来て頂いたあと、数日は食欲も出るしご機嫌もいいし、分っておいでなんですよ！！」

昭和45年8月15日、俺の親父が交通事故で即死（56歳）。その二、三日後の事（数年後、奥さん「松子「しょうこ」さんから聞かされたことだが）「淳さんとデートを兼ねて高ボッチに行った時にね、淳さんがポロポロ涙流してるの。“どうしたの？”“俺たちがこんなことしてるのに、小松は今地獄だろうな”・・・」

見かけによらず女性に積極的だったな！

信大工学部時代のこと。長野短大（当時）開学以来の美女（上述の松子さん）

に目を奪われた。下宿の壁に逆立ちし思案した。「そうだ、短大との合同ダンスパーティーって手があった。思い立った翌日から準備即行、ダンス教室へ！ワルツ、タンゴ、ジルバ等々学業そっちのけで半年かけて社交ダンスをマスター。大輪をモノにするための周到の準備は、家康の大堀埋めにも匹敵（ちと大袈裟か）結果大成功。但し彼女は二人姉妹の妹、姉は既婚別姓。ご両親は不承不承「養子」だったら。金井の親父さんは「養子？ふざけるな！」そこを御袋さんがとりなし目出度く大願成就。結婚式は44年春、松本だったよな。虚弱体質どこ吹く風、59連発は後日談。

人好きだったな！

大切に育てられたせいなのか、折りに触れ人の輪を作っては語らったよな。同期会幹事役が廻ってくると「80人集めて新記録挑戦だ!」、大鮎邸（福島君のペンションキングサーモン）集まりでも長野から何度も駆けつけて来たり。東京同期会も新幹線で馳せ参じたり、中越君の誘いで屢々松本へ来てカラオケを楽しんだり。因みに、中越君は長野生活が20年の長きに及び、その間毎週金井（青木）と飲んではカラオケ大会だったそう。二人の「梓2号」はよく聴かされた。見事なものだった。中段からの「・・・さよならはいつまでたっても・・・」綺麗にハモっていたのが耳に残っている。

平成12年だったか、一杯機嫌で自転車に乗っていてタクシーに撥ねられ側頭部骨折、その後パーキンソン発症、8年前に不自由な身体に鞭打って長野駅まで車で迎えに来て呉れ昔話をしたのが最後の歓談だった。電話での遣り取りはしょっちゅうだったが。亡くなる前の年秋頃だったか「飲み仲間が誰もいなくなっちゃった。出てこいや！」これが最後の遣り取り。合掌